

関東学院大学戦略的プロジェクト研究 研究成果報告書

2016年 3月 31日

1. 研究代表者

研究代表者名	所属	職
渡邊 憲正	経済学部	教授

2. 研究課題名 東アジア（とくに日中韓）の安全保障と近代化のあり方に関する研究3. 研究期間 2013 年度～ 2015 年度

4. プロジェクトメンバー

	No.	氏名	所属	職
研究代表者	1	渡邊 憲正	経済学部	教授
研究分担者 (大学院生含む)	2	大内 憲昭	国際文化学部	教授
	3	佐藤 佑治	国際文化学部	教授
	4	鄧 捷	国際文化学部	准教授
	5	菅野 恵美	国際文化学部	講師
	6	清 响一郎	経済学部	教授
	7	林 博史	経済学部	教授
	8	殷 燕軍	経済学部	教授
	9	田中 史生	経済学部	教授
	10	佐治 暁人	経済学部	非常勤講師
	11	小野 百合子	経済学部	非常勤講師

5. 費目別収支状況

	合計	研究経費				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金	その他
実支出額の使用内訳	1,300,000 円	0 円	0 円	100,000 円	0 円	1,200,000 円
「研究経費の明細」記載の研究費の使用内訳	1,330,000 円	0 円	0 円	770,000 円	60,000 円	500,000 円
備考欄	その他の 120 万円は、『東アジアの政治と文化』（明石書店）刊行費用。					

6. 研究成果の概要(2000字程度) :

研究成果としては、とくに2点を指摘することができる。1) 2年目を迎えたワンアジア財団の寄付講座に協力し、かつ10名のメンバーが殷燕軍・林博史編『アジア共同体と日本』(花伝社2015年9月)の執筆を担当した。2) 今年は研究プロジェクトの成果を形に表すために最初から出版を企画し、これを大内憲昭・渡辺憲正編『東アジアの政治と文化』(明石書店2016年3月)としてまとめた。これにはメンバー全員と学外者4名の協力を得た。

7. 研究開始当初の学術的背景、特色及び独創的な点 :

本プロジェクトは、多角的なアプローチによる安全保障研究をめざすものである。日中韓の安全保障では、とりわけ歴史認識問題が不可欠の前提をなす。これまでも歴史学、政治学、ナショナリズム研究などにおいて近代化との関連で議論されてきたテーマであるが、さらに本研究プロジェクトは、西洋の近代化——「文明と野蛮」図式にもとづく植民地化と戦争を内包する——をアジアがどう受容し変容させてきたか、など、今日なお争われている近代化/近代思想の見直し、あるいは戦後思想の再検討を図るという発展性も備えている。(以上、前年度報告再録)

8. 研究の目的と内容 :

本プロジェクトの目的は、東アジア(とくに日中韓)における近代化、国際関係と国際協力、経済活動、民族問題などの諸側面に関する研究を通じて、この地域における安全保障のあるべき姿を明らかにし、以て東アジア地域の健全な発展に資することにある。具体的には、1) 現代の日中韓における政治・軍事的安全保障、国際協力や援助関係を分析するだけでなく、2) 東アジア地域の近代化と経済協力発展をとらえると同時に、3) 19世紀以来の日中韓の歴史を再考すること、そして、4) これらの研究成果の上に、東アジア地域における国際交流を進める政策提言を行うこと、を課題とした。(同上)

9. 研究方法 :

歴史認識問題については、従軍「慰安婦」問題や領土問題などの個別的テーマを現代的視点から問い直すなどの作業を行う一方、寄付講座の協力のために「アジア共同体」形成という統一テーマに迫る中で、アジアと日本の歴史を、さまざまなアプローチ——政治的/経済的/歴史的/思想史的など——で解明する試みを行った。近代化については、近代西洋思想史とそれから影響を受けた近代日本の受容史/思想史(とりわけ上記の「アジア共同体」論と絡めて、ナショナリズムとアジア主義の歴史)の見直しを、系統的に行った。(同上)

10. 研究成果 :

「15. 研究発表」に示す論文・著書のほか、下記の成果がある。

- ①殷燕軍・林博史編『アジア共同体と日本』—殷燕軍「アジア：和解、共生、そして共同体へ」/渡辺憲正「思想史からアジア共同体を考える」/鄧捷「東アジアの言語空間」/田中史生「東アジアの異文化交流史」/佐藤佑治「前近代東アジアの国際関係としての冊封体制」/大内憲昭「朝鮮民主主義人民共和国の対外経済政策」/清响一郎「世界を牽引するアジア自動車生産と日本のグローバル展開」/林博史「なぜ日本軍「慰安婦」問題が大きな問題となっているのか」/佐治暁人「戦犯裁判と日本の戦争責任」/小野百合子「沖縄からみた東アジアの平和」
- ②大内憲昭・渡辺憲正編『東アジアの政治と文化』—渡辺憲正「福沢諭吉における国権拡張論への「転換」根拠」/大内憲昭「朴槿恵政権の「北東アジア平和協力構想」と東アジア共同体」/林博史「東アジアの安全保障と領土問題・歴史認識」/殷燕軍「習近平指導部と中国外交の展開」/小野百合子「沖縄からみる戦後日本の「平和と民主主義」」/佐治暁人「戦犯釈放問題と日本の戦争責任」/田中史生「歴史世界としての「東アジア世界」の現在」/清响一郎「世界生産の60%を担う日中韓自動車産業のグローバル戦略」/佐藤佑治「東アジアの国際関係」/菅野恵美「古代中国の統治と地域」/鄧捷「魯迅文学における女とその復讐」

1 1. 研究成果に対する自己点検による評価：

昨年度の「自己点検による評価」では、「プロジェクトの研究目的に照らして、成果を上げているのは疑いないとしながら、「それらをまとめた成果とする作業、あるいはプロジェクトとして統一した成果を出すにはまだ至っていない弱さがある。多忙その他の困難な条件はあるが、さらに工夫を凝らす余地はあると思われる」と記した。これを受けて、戦後70年でもあった今年度は、「統一した成果」として出版企画を提起し、全員の了解を得て、出版社の交渉等に当たった。4名の学外者にも執筆をお願いし、多角的な議論を行うように努力した結果、意欲的な論文が寄せられたと考えている。ただし、原稿提出前に検討会を開催することができず、テーマを詰める作業が手薄になった。

1 2. 研究経費と研究成果の関係に対する自己点検による評価：

当初の計画では、簡易な報告書を出すことを想定し、研究経費は50万円を計上していたが、議論の中で出版の方向が出され、現在の出版事情から研究経費はほとんどを出版費用にあてることが了解された。新規のメンバー1人を除いて旅費はゼロとした。これは、多くのメンバーがワンアジア財団の研究費をも取得しており、大きな条件変更にはならないという事情によって可能になったものである。出版物を研究成果とするならば、研究経費は十分に活かすことができたとも考えられる。

1 3. 本プロジェクト研究の成果を踏まえて応募した外部の競争的研究資金及び、それらを獲得するための戦略に対する自己点検による評価：

ワンアジア財団の寄付講座を受け入れることによって、2014年度と2015年度の2年間の研究資金を獲得した。また2015年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の研究プロジェクト「グローバリゼーションの進展に伴う地域間連携の変動に関する調査・研究」の申請に、2016年度も、その後継研究プロジェクトの申請に、参画した。結果は、不採択であり、やはり外部の競争的研究資金を獲得するための戦略はなお弱体であったという反省が必要である。アジア地域の研究は、今後とも継続し拡張すべき意義のある研究であろうから、さらにこの基盤拡大のための努力が求められる。

15. 研究発表

[雑誌論文] 計 (9) 件 うち査読付論文 計 (5) 件

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください（左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

1. 渡辺憲正 『学問のすすめ』考——前期福沢諭吉の思想構造
関東学院大学『経済経営研究所年報』第38集、査読無、投稿中
2. 渡辺憲正 「ジョン・ロックの自然状態論（下）」
関東学院大学経済学部『経済系』第264集、査読有、72-94頁
3. 大内憲昭 「朝鮮民主主義人民共和国の対外経済政策と「経済特区」」
『関東学院大学人文学会 2015年度紀要』第132号、査読有、151-92頁
4. 大内憲昭 「明日の社会をになう人材育成のために——一二年制義務教育について——」
『金日成・金正日主義研究』第152号、査読無、85-93頁
5. 大内憲昭 「朝鮮社会主義は豊かな人民生活を保障する～法律から見た朝鮮の労働、教育、医療、社会福祉、住宅問題～」
『金日成・金正日主義研究』第154号 査読無、59-84頁
6. 林博史 「日本軍「慰安婦」研究の現状と課題」『歴史評論』2015年8月、査読有、29-40頁
7. 田中史生 「倭王権の渡来人政策」『季刊考古学』別冊22、査読無、151-159頁
8. 佐治暁人 「沖縄戦と援護法：戦闘参加者と戦闘協力者をめぐって」
関東学院大学経済学部教養学会編『自然・人間・社会』第59号、査読有、65-95頁
9. 小野百合子 「奄美における沖縄返還運動」
法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』第43号、査読有、1-52頁

[図書] 計 (8) 件

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年（西暦）について記入してください（左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

1. 殷燕軍・林博史編『アジア共同体と日本』花伝社、262頁
*内訳は、「10. 研究成果」に記載のとおり。
2. 大内憲昭・渡辺憲正編『東アジアの政治と文化—近代化・安全保障・相互交流史—』明石書店、307頁
*内訳は、「10. 研究成果」に記載のとおり。
3. 大内憲昭『朝鮮民主主義人民共和国の法制度と社会体制——朝鮮民主主義人民共和国基本法令集付——』明石書店、582頁、2016年
4. 林博史『日本軍「慰安婦」問題の核心』花伝社、2015年6月、364頁
5. 林博史「遊廓・慰安所」：林博史・原田敬一・山本和重編『地域のなかの軍隊9 地域社会編 軍隊と地域社会を問う』吉川弘文館、2015年9月、31-53頁
6. 林博史「サンフランシスコ講和条約と日本の戦後処理」：『岩波講座 日本歴史 近現代史5』岩波書店、2015年10月、1-38頁
7. 田中史生『国際交易の古代列島』株式会社 KADOKAWA、2016年1月、253頁
8. 田中史生「漢字文化と渡来人—倭国の漢字文化の担い手を探る—」：国立歴史民俗博物館・小倉慈司編『古代東アジアと文字文化』同成社、2016年3月、5-30頁

[学会発表] 計 (2) 件 うち招待講演 計 (0) 件

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月 (西暦) について記入してください (左記の項目が網羅されていれば、順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

1. 菅野恵美 : 国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」、発表標題名 : 「墓葬装飾から見る中国古代の馬」、開催地 : 学習院大学、発表年月 : 2016 年 1 月
2. 小野百合子 : 「日本同時代史学会 2015 年度年次大会」、発表標題「1950 年代半ばの日本青年団協議会による沖縄返還運動」、開催地 : 大妻女子大学、発表年月 : 2015 年 12 月

[その他の研究成果など] 計 (0) 件

上記の雑誌論文、図書、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。

16. 科研費等の競争的研究資金の申請・採択状況

〔研究分担者の科研費申請〕

【2015年度】

申請者名	研究課題名
林博史	日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力の比較研究
研究種目	研究分担者内のプロジェクトメンバー(No.)
基盤研究(B) (一般)	7
採否	審査結果(順位)
採択	—

【2016年度】

申請者名	研究課題名
菅野恵美	墓葬装飾からみた漢代黄河下流域における地域形成解明へのアプローチ
研究種目	研究分担者内のプロジェクトメンバー(No.)
基盤研究(C) (一般)	5
採否	審査結果(順位)
採択	—

〔その他の研究費〕

申請者名	研究課題名	
殷 燕軍 ※プロジェクトチームとしての応募	アジア共同体と日本	
研究資金名称	研究種目等	採否
ワンアジア財団アジア共同体講座開設助成	—	採択

17. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類・番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類・番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

18. 備考

研究者または所属研究機関が作成した研究内容または研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載してください。

--

以上